平成26年度協働事業報告会（25年度事業実施分）　質疑応答

３　「就労困難若年者就労支援事業」（市提案協働事業）（日本青年事業経営者協会、産業振興課）

Ｑ　色々と手を尽くされた印象を受ける。課の事業として、専門性がないと難しいのではないかと感じた。受け入れる側の条件、登録している人の心理学的な問題など、何か聞いたりするなど調整の場はあったのか。

Ａ　（担当課）　就労困難な若者の支援はサポートステーションが行っており、そこには臨床心理士など専門家が集まっている。就職に向けてのステップの一つが体験就労である。安い働き手が来るなら嬉しいという誤解を招くことだけは避けたいと思った。そのため、団体にも、事業スタート前に、サポートステーションを見学していただくなどした。

Ｑ　専門性が必要な部分とのギャップで団体が苦しんでいたように思える。閃絡的に考えて進めた方が良かったと思う。

Ａ　（担当課）　51企業はほとんど飛び込みであった。もっと計画的に出来れば良かったと思う。企業がどのくらい興味を持ってくれるかも分からないままのスタートだった。

Ｑ　苦労されたと思う。その中で３事業所取れたことは大変だったと思う。やり方を変えた方がよかったのではないかと思う点がある。CSR（企業の社会的責任）の観点からビジネスチャンスといったアプローチで進めていった方がよかったのではないか。効率のよいやり方に変えることによって、事業が展開する可能性があると思う。

Ｑ　評価シートのずれが気になった。当初の計画どおりに行われていたかという点や目標が達成できたのかという点が担当課と団体で認識がずれている。どういう理由でずれが生じたのか。

Ａ　（団体）　計画を立ててやろうとしたが、門前払いをくらい、当初の計画を変えてずれが生じた。担当課の方も一緒に汗を流してもらった中で道筋も見えたが、我々が勤め人であるため、時間がなく意思の疎通がとれず申し訳なかったと思う。

Ａ　（担当課）　計画を綿密に立て過ぎたのではないかという思いはある。